

家庭教育強化支援プロジェクトについて（叩き台）～教育（社会教育+学校教育）と福祉の連携を目指して～

【現状と課題】

- ・家庭の孤立化
- ・親子の時間の減少
- ・スマートフォン等の利用による親子の対話不足
- ・子育ての困難さ
- ・支援者への情報の届きにくさ
- ・地域連携の強化



【取組】

- ・家庭教育支援コーディネーターの配置
- ・就学前施設の家庭教育支援員の増員
- ・家庭教育強化支援推進会議の開催
- ・親育ち・子育ちサロンや講座の拡充



【効果、目指す姿】

- ・保護者自身の学びと成長の支援
- ・親子の対話による家庭の安定と、子どもたちの健やかな育ち
- ・就学前から小学校低学年の家庭教育支援の滑らかな接続
- ・地域全体で子育てを支える風土の醸成

家庭教育強化支援推進会議（新規10名程度）

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」に基づく、「就学前の保護者に求められる10の姿」の検討
- ・保護者の学びと成長（親育ち）推進方策および家庭教育の強化支援に関する検討
- ・保護者相互の学び合い・支え合いの場に関する検討
- ・親子の対話力向上及び家庭内コミュニケーション促進策の検討

家庭教育支援コーディネーター（新規2名）

- ・学齢に応じた家庭教育講座の開催をコーディネート
- ・家庭教育に関する情報提供
- ・保護者と子ども、家庭と地域が体験を通し、つながることができる場、「就学前の保護者に求められる10の姿」に沿った子育てサロンの提案 等



家庭教育支援員

令和8年度市内小学校（拡充）・就学前施設（新規）

2900時間



- ・保護者の相談支援
- ・アウトリーチ型の「届ける」支援
- ・保護者の孤立を防ぐための支援
- ・あいさつ運動や学校行事等で保護者とつながることにより、保護者が子どもたちを安心して送り出せる環境を整備
- ・各校園所での親育ち・子育ちサロンや講座の開催 等



家庭 就学前施設 学校

家庭教育強化支援プロジェクトについて(叩き台)

現状・課題

- ・家庭の孤立化
- ・親子の時間の減少
- ・スマートフォン等の利用による親子の対話不足
- ・子育ての困難さ
- ・支援者への情報の届きにくさ
- ・地域連携の強化

取組

- ・家庭教育支援コーディネーターの配置
- ・就学前施設の家庭教育支援員の増員
- ・家庭教育強化支援推進会議の開催
- ・親育ち・子育ちサロンや講座の拡充

効果・目指す姿

- ・保護者自身の学びと成長の支援
- ・親子の対話による家庭の安定と、子どもたちの健やかな育ち
- ・就学前から小学校低学年の家庭教育支援の滑らかな接続
- ・地域全体で子育てを支える風土の醸成

家庭教育強化支援推進会議（10人程度）

「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿(10の姿)」、「幼児期の保護者に求められる10の姿」の共有



家庭教育支援コーディネーター（2人）



0歳以上の

子どもと保護者

なめらかな接続

就学前幼保の
子どもと保護者

なめらかな接続

低学年

中学年

高学年

【小学校】

家庭教育支援員

- ・小学校(拡充)
- ・就学前(新規)



福祉+教育(社会教育(生涯学習)、学校教育)の連携